

校長室より ～「新・山吹の風」 No.11 R6.8.26 ～

8月22日の「処暑」(しよしょ・二十四節気の一つ・暑さが一段落する頃)を経て、蜩(ひぐらし：かなかなのこと)や法師蟬(ほうしぜみ：つくつくぼうしのこと)の鳴き声にどこかしみじみとした感慨を抱くようになりました。暑さの勢いが弱まったのか、私たちが暑さに慣れてしまったのか、少しずつ夏から秋へと季節が移ろいゆくを感じます。

ひぐらしに肩のあたりのさみしき日 草間 時彦

さて13日(火)の茨城新聞にとある記事が掲載されました。「県民の声」というコーナーの中で、ある御方が本校生の行動に感謝の意を述べて下さったのです。

市内のスーパーで買い物を終え、お店を出ようとしたところ、突然の雷雨。傘をお持ちでなかったその方は、「どうしようか」と立ち往生を余儀なくされました。その困っていた様子を見た3人の本校生が車まで傘を差して濡れないようにし、カートの荷物も運んでくれたという内容でした。

「元気をもらい、爽やかな風が吹き抜けたようだった。」とおっしゃって下さり、本当に良かったと思うと同時に、3人の心の優しさにとっても嬉しい気持ちになりました。地域の方々と心の通い合うひとときを大切に、これからも笑顔の生まれる日々をともに作り出していきたいと願っております。

かなかなや輝き増せる川の水 幸恵

